大阪府に於ける栄養攝取状況

Report on Nutritional Reserches for Daily Diet in Osaka Pref. in 1948.

(昭和 23 年国民栄養状況調査による)

濱 村 嘉 幸
Yosiyuki Hamamura

国民栄養調査中大阪府に於けるものは、次の如くである。

実施された調査地区及び世帯数は

(イ) 大都市としては大阪市で、その中東、大正、東淀川、東成、生野、阿倍野、西成の 7 区に於て定められた學區から 40 世帯宛計 280 世帯が選ばれ、

(ロ) 中都市としては堺市、豊中市で各の定められた學區から 40 世帯宛計 80 世帯が選ばれ、

(ハ) 町村としては信太村、矢田村で各 60 世帯計 120 世帯が選ばれ、之等の世帯の家族全員について身體検査と栄養攝取状況とが調査された。

茲に注意すべきは前 2 ケ年に於てはその調査対象が消費者と生産者とに分けられていた爲、その調査成績に兩者の特異性及び身體的症候と攝取状況との相關性が明瞭に現われたが、本年度に於ては調査対象が任意抽出法で選ばれた爲生産者地區と消費者地區の様な明かな區別なく、第 1 表に示す様に町村に於ても純農家が僅かに 3.4

第 1 表 職業分類表

職業別	中都市 (堺、豊中)		町村 (信太、矢田)	
	世帯数	%	世帯数	%
農 業	0	0	4	3.4
給料生活者	23	29.1	57	48.7
商 人	41	51.9	24	20.5
自 由 業	7	8.1	5	4.3
無 職	8	10.1	27	23.1
計	79	100.0	117	100.0

%にすぎない爲消費地としての色彩が濃く、従つて大都市、中都市、町村の間に從來の様な著しい特徴を見ることは期待出来ない。

以下本年 4 回にわたつて実施された調査の中栄養攝取状況をとりまとめ前 2 ケ年の成績と對比検討しつつ今後の栄養改善の資料としたい。

調査成績

(1) 攝取量について

1 人 1 日當りの平均攝取量は大都市 (大阪市) に於ては 8 月が最少、11 月が最高で、從來は 5 月が最少であ

第 2 表 平均攝取量

月 別	大 都 市		中 都 市		町 村	
	總 量	動物性食品	總 量	動物性食品	總 量	動物性食品
2 月	1,010 ^g	92 ^g	1,022 ^g	87 ^g	967 ^g	71 ^g
5 月	1,054	85	829	67	863	72
8 月	838	105	867	47	1,008	51
11 月	1,121	90	1,127	64	1,100	52

つた。中都市及び町村では 5 月が最少、11 月が最大で前の 2 ケ年の全国都市及び大阪市と同様の傾向を示している。又年間平均大都市では約 1,006g で前 2 ケ年より 20g~60g の増加を示し、中都市は約 960g、町村は 985g で之を前 2 ケ年の成績と比較すると中都市では昭和 21 年 (約 982g) と昭和 22 年 (約 943g) の中間にあり、町村では昭和 21 年と大差なく昭和 22 年より約 40g 増加している。

蛋白源として最も重要な動物性食品の攝取状況を見る

に、大都市では 85~105g で他の地區より遙かに多く、中都市では 47~87g、町村では 51~72g で最も少ない。年間平均大阪市では 93g で最も多く、前 2 ケ年に較べて約 50% の増加 (32~37g 増加) で質的の向上を示し、中都市 (66g)、町村 (62g) の順であるが、尙希望數に對しては大阪市で 78% の状態であり、町

第 1 圖 攝取量比較圖

村に至つては 51% の少量である。

次に如何なる食品からどの程度攝取されているか、食品の種類及びその量を比較してみると第3表の通りである。

(2) 攝取蛋白質及び熱量について。

攝取蛋白質及び熱量は第4表及び第2圖に示す通りである。

次に熱量について見るに、大都市では2月より僅か宛減少し8月 1,862cal で最少、11月は 1,951cal となり

最高である。中都市では2月より減少し8月には激減して 1,435cal で最少、11月は 1,828cal となり最大である。又之は前2ヶ年の傾向と同様であり蛋白質と同様大都市の方が中都市より多い。町村では2月8月が少くて夫々 1,721cal, 1,729cal, 最高は5月で 1,926cal で之も大阪市の最高より少い。年間平均を見ても大阪市が他の地区より多くて約 1,887cal, 之を前2ヶ年に比較すると、昭和 21 年より約 160cal, 昭和 22 年よりは約 30cal 増している。

第 3 表 食 品 攝 取 量 (1人1日當)

月 別 地区別 食品群別	2 月			5 月			8 月			11 月		
	大都市	中都市	町 村	大都市	中都市	町 村	大都市	中都市	町 村	大都市	中都市	町 村
1 米	282	294	291	240	271	277	300	175	238	214	179	196
穀類												
大 麥	45	36	61	64	55	67	48	78	65	55	55	42
小 麥	95	63	45	73	116	112	92	70	59	137	123	139
(粉を含む)												
雜 穀	2	1	—	40	1	0	1	16	26	2	0	—
2 堅 果 類	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0
3 甘 藷	87	81	82	5	10	15	25	2	13	267	362	356
薯類												
馬鈴薯	8	20	33	112	2	15	9	119	182	13	14	31
その他	2	0	2	3	—	1	4	—	0	22	15	11
4 砂糖類	2	3	1	20	10	11	5	11	15	6	2	3
5 油脂類	1	1	0	2	1	0	2	1	0	1	1	1
6 大豆	8	4	3	2	1	2	2	1	2	1	1	1
豆類												
大豆製品	29	18	20	33	18	25	21	13	21	35	33	19
その他の	3	9	2	4	5	5	6	4	1	2	5	1
7 魚介類	19	68	47	60	61	62	78	38	41	69	48	39
8 獸鳥肉類	17	18	20	21	4	5	17	7	8	18	13	12
9 卵 類	4	1	3	3	2	3	4	1	1	2	1	1
10 牛乳製品	1	—	1	1	0	2	5	1	1	1	2	0
11 綠黃色野菜	112	135	124	66	96	93	18	75	79	71	57	60
12 柑 橘 類	6	5	2	40	8	3	15	50	48	7	9	6
13 果の他の物の	4	4	3	21	6	3	9	14	3	22	24	14
14 野の他の菜	147	158	111	186	81	88	85	115	102	106	124	79
15 海藻類	3	4	3	5	5	4	6	4	3	8	4	1
16 乾燥野菜類	5	7	5	2	5	3	8	1	0	0	0	0
17 野菜漬物	52	74	84	27	54	54	45	58	68	31	31	57
18 調味料	25	18	24	24	17	13	33	13	32	23	23	31
計	1,010	1,022	967	1,054	829	863	838	867	1,008	1,127	1,127	1,100

第 2 圖 蛋白質及び熱量比較圖

(3) 摂取食品より見た蛋白質及び熱量の比率

以上述べた蛋白質及び熱量が如何なる食品からどの程度に摂取されているかを明かにするため第5表、第6表を掲げて見た。

(4) 入手別摂取栄養量について

以上の栄養量が如何なる方法で入手されたかを検討して見ると第7表に示した通りである。即ち大都市（大阪市）では摂取熱量の約 58~68% が配給により、約 28~39% が自由購入により、残餘が自家生産及び他の方法によつて入手されている。中都市では約 55~72% が配給により、約 23~38% が自由購入により、3~6% が自家生産により、1~2% がその他の方法により入手されており、

第 4 表 蛋白質及び熱量

月別	地区別	大 都 市			中 都 市			町 村		
		蛋白質		熱 量	蛋白質		熱 量	蛋白質		熱 量
		總蛋白質	動物性蛋白質		總蛋白質	動物性蛋白質		總蛋白質	動物性蛋白質	
		g	g	cal	g	g	cal	g	g	cal
2 月		68	20	1,869	63	17	1,784	61	16	1,721
5 月		64	19	1,867	60	16	1,745	64	19	1,926
8 月		68	24	1,862	45	10	1,435	51	13	1,729
11 月		65	20	1,951	55	13	1,828	54	14	1,846

第 5 表 摂取食品より見た蛋白比率 (%)

食品別	地区別	2 月			5 月			8 月			11 月		
		大都市	中都市	町村	大都市	中都市	町村	大都市	中都市	町村	大都市	中都市	町村
穀 類		52.5	50.1	54.2	51.7	57.4	55.8	52.5	62.2	55.8	51.2	52.7	55.3
芋 類		1.9	1.6	3.4	3.4	0	0	0.9	4.5	7.4	6.7	9.1	10.7
豆 類		7.8	9.6	5.1	9.5	5.0	7.4	6.6	4.5	5.5	6.4	10.9	3.6
動物性食品		29.7	27.5	27.1	29.3	26.2	27.9	35.5	22.2	24.1	29.6	25.5	25.0
野 菜 類		6.1	8.0	6.8	4.5	8.2	7.4	2.1	4.4	3.6	4.6	1.8	3.6
其 の 他		2.0	3.2	3.4	1.6	3.2	1.5	2.4	2.2	3.6	1.5	0.0	1.8
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

町村では 53~66% が配給により、26~32% が自由購入により、8~14% が自家生産により、残餘の 1% 前後がその他の方法で入手されている。蛋白質も同様で、大都市では 41~51% が配給により、44~55% が自由購入により、自家生産及び其の他のものは各 3% 以下である。中都市では 46~54% が配給により、38~49% が自由購入により、4~7% が自家生産により、その他のもの

は 3% 以下である。又町村に於ては 35~51% が配給により、38~53% が自由購入により、3~12% が自家生産により、その他のものは 2% 以下である。即ち大都市では熱量の 97~99%、蛋白質の 95~98% が、中都市では熱量の 85~92% が、蛋白質の 88~96% が配給食品及び自由購入の食品から得ており、自家生産では大都市は殆どないが、町村では 10% 前後の高率を示している。

第 6 表 攝取食品より見た熱量比率 (%)

月別 食品群別	2 月			5 月			8 月			11 月		
	大都市	中都市	町村	大都市	中都市	町村	大都市	中都市	町村	大都市	中都市	町村
穀類	77.4	76.3	78.7	75.2	81.6	82.1	81.5	77.7	76.7	66.8	61.7	65.0
芋類	6.3	6.9	7.5	5.3	0.8	1.8	2.3	7.3	9.2	18.1	24.4	25.2
豆類	3.0	3.9	2.7	3.6	2.4	2.8	2.9	1.7	2.2	2.7	4.4	1.5
動物性食品	7.8	6.2	6.0	6.6	6.3	6.4	8.4	5.3	4.7	6.5	4.8	4.5
野菜類	2.8	3.1	2.6	3.3	4.1	3.5	1.5	2.8	2.4	2.2	2.2	1.7
其の他	2.7	3.6	2.5	5.9	4.8	3.4	3.4	5.2	4.8	3.7	2.5	2.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第 7 表 入手別栄養摂取量

入手別	月別	大 都 市				中 都 市				町 村			
		熱量	%	蛋白質	%	熱量	%	蛋白質	%	熱量	%	蛋白質	%
配 給	2	1,160	62.1	35	51.4	1,157	64.9	34	54.0	1,067	62.0	31	50.8
	5	1,325	70.9	32	51.2	1,093	62.6	30	50.0	1,261	65.5	29	45.3
	8	1,072	57.6	28	40.6	797	55.5	20	44.5	913	52.9	18	35.3
	11	1,318	67.5	32	49.2	1,321	72.3	29	52.7	1,083	58.7	25	46.3
自 由 購 入	2	656	35.2	30	44.2	546	30.6	24	38.1	439	25.5	23	37.7
	5	517	27.7	30	46.2	565	32.4	25	41.7	514	26.7	32	50.1
	8	731	39.2	37	54.7	538	37.5	22	48.9	553	32.0	27	52.9
	11	597	30.6	32	49.2	414	22.6	23	41.8	539	29.2	24	44.4
自 家 生 産	2	71	0.9	1	1.5	47	2.6	3	4.8	200	11.6	6	9.8
	5	9	0.5	1	1.4	51	2.9	3	5.0	144	7.5	2	3.1
	8	43	2.3	2	3.1	79	5.5	3	6.6	239	13.8	6	11.8
	11	26	1.4	1	1.6	67	3.7	2	3.6	213	11.5	5	9.3
其 他	2	36	1.9	2	2.9	34	1.9	2	3.1	15	0.9	1	1.7
	5	16	0.9	1	1.2	36	2.1	2	3.3	7	0.3	1	1.5
	8	16	0.9	1	1.6	21	1.5	0	0	22	1.3	0	0
	11	10	0.5	0	0	26	1.4	1	1.9	11	0.6	0	0

第 8 表 無 機 質 及 ビ タ ミ ン

月別 地区別	大 都 市						中 都 市						町 村					
	Ca	Fe	VA	VB ₁	VB ₂	VC	Ca	Fe	VA	VB ₁	VB ₂	VC	Ca	Fe	VA	VB ₁	VB ₂	VC
2 月	mg 254	mg 43	I.U. 3,396	mg 1.467	mg 0.682	mg 121	mg 245	mg 42	I.U. 4,055	mg 1.404	mg 0.661	mg 136	mg 220	mg 38	I.U. 3,698	mg 1.20	mg 0.51	mg 122
5 月	237	41	2,349	1.484	0.788	110	211	35	2,974	1.310	0.585	77	227	35	2,838	1.32	0.55	78
8 月	221	37	840	1.292	0.548	43	185	32	2,604	1.239	0.526	102	209	33	2,666	1.27	0.51	109
11 月	255	53	2,340	1.726	0.722	152	229	53	1,889	1.719	0.677	179	211	50	1,865	1.41	0.50	168
平 均	242	44	2,231	1.492	0.686	107	218	41	2,883	1.418	0.612	124	217	39	2,767	1.30	0.52	119

茲に注目すべきは食糧事情の好轉に伴い、大阪市が他の地区に比して配給によつて得られる栄養量（蛋白質及び熱量）が毎時期を通じて多く、大阪市の配給状況が他の地区に先立つて良好になりつつあることが窺える。

（5）無機質及びビタミンについて

次に無機質としてカルシウム及び鐵を、ビタミンとして A, B₁, B₂, 及び C を攝取食品の群別に分類したものから算出すれば第 8 表の通りである。但しこの数字は損耗を全く考えに入れない、原材料としての推定数であることに留意致され度し。

總 括

以上昭和 23 年度大阪府に於て行われた國民栄養狀況調査の成績を要約すれば次の通りである。

1. 大都市としての大阪市は 7 区より 280 世帯、中都市として堺、豊中兩市より各 40 世帯宛、町村として信太、矢田兩村より 60 世帯宛任意抽出法で選ばれたが、町村に於ける農家が僅か 4 戸である爲調査対象の殆ど總てが消費者である。

2. 攝取量は大阪市が年間平均約 1,006g で前 2 ケ年

より 20~50g 増しているが、尙標準量より 11%、中都市では 15%、町村では 13% 足りない。又 11 月には 8 月より約 260~300g 増加しているが、之は甘藷の使用が多いによる。

3. 油脂の使用は殆どなく、魚介類は都市に多い。有色野菜は大都市では 5 月、8 月に少く、漬物の使用は年間を通じて町村に多い。

4. 蛋白質、熱量共大阪市に於ては大に向上しているが、尙蛋白質で約 9g、熱量で 2000cal 足りない。中都市、町村に於ては餘り向上していない。蛋白質は穀類から過半数攝取され、熱量は 75% 以上、芋類を加えると 90% 以上となる。又蛋白質、熱量の 85~99% が配給及び自由購入より得られ、自家生産よりは町村に於て約 10% あるのみである。

5. 無機質の中鐵は所要量に達するが、カルシウムは所要量の 1/4~1/5 程度の少量である。ビタミン類は調理時の消失を考慮する時は A, B₁, B₂, 何れも所要量に達せず、又 C も充分でない。B₂ に至つては半量に近い。

（大阪府衛生部公衆衛生課）